

今までの授業

- 導入に補強運動を行うだけでなく、単元ごとに必要な体力を向上させるトレーニングを継続して取り組んだ。その際に昨年度の東京都生徒体力・運動能力テストの結果を基に、課題を明確にして、その課題に焦点を当て、内容に沿った計画をして実践していった。その成果は次年度の東京都生徒体力・運動能力テストの結果を基に再度検証していく。
- 各単元で、生徒自身が更に興味関心をもてるように、ICT機器の映像を活用して、「視覚化」した。また、話しあいがスムーズに円滑に行えるようにICTに加えて、ボードを活用して頭の中のイメージを言葉で伝えられるように工夫をした。
- 教師が評価するうえでもICT活用が有効であると考えられたので、技能テストを映像に残して、じっくり評価をしたり、次の授業計画の参考にしたり、生徒への声掛けの工夫にも活用した。また、体育科同士の授業改善の研究材料として活用できたことは、成果として捉えている。

課題

- <第1学年>
小学校との引継ぎや運動に関するアンケートの結果から、運動に対する苦手意識は少ない。しかし、体育の中で他者に伝えたり、一緒に課題を考えたりする場面で、内容が抽象的になってしまうことが課題である。
- <第2学年>
昨年度の体力・運動能力テストの結果から、男女とも合計得点は東京都の平均を上回っていたが、男子が全国に比べると平均を下回っている分野があった。その結果を受けて男女共修の中でも、運動量の確保を重視していく。しかし、それと同時に仲間と話し合ったり、課題と一緒に発見したりするような場面設定を減少させないことが課題である。
- <第3学年>
昨年度の体力・運動能力テストの結果から、男女ともに柔軟性に課題があった。その結果を受けて補強運動で身体を縮めたり伸ばしたりする運動を取り入れた結果、柔軟性の向上を図ることができた。仲間との話し合いもスムーズになってきたので、更なる技や課題に挑戦しようとする姿勢や行動を求めていくことが課題である。

授業改善の具体的な方策

第1学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

話し合う場面を設定しつつも運動量の確保を重点的に行う。学年全体として話し合いが活発に行える雰囲気があるので、仲間と協力しながら、個の課題解決に向けて取り組ませていく。また、抽象的な話し合いにならないよう、教師が明確な課題を提示していく。

【授業の一部または全部を改善すること】

運動量の確保と話し合う場面の両立の中で個に応じた指導をしていく。個に応じた指導により、挑戦してみようとする姿勢を育み、更なる深い学びにつなげていく。また学習カードを積極的に活用し、他者からの意見も参考にし、自身の振り返りを行っていく。

第2学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

話し合いの場の設定と運動量の確保を両立して行っていく。話し合いが抽象的にならないように、明確な課題を教師が提示したり、課題発見の一助となるようにICTの映像を活用したりしていく。集団行動の規律とルール作りを徹底していくことを土台として、新たな事への挑戦心をもてるようにする。その挑戦とは、個に応じた課題や技能によって選択できるように。

【授業の一部または全部を改善すること】

授業アンケートの結果から、「自分の考えをまとめたり、伝え合ったりする授業が行われている」という項目が96%と昨年度に比べ向上した。しかし、視覚的工夫について、「そう思う」が全体に比べて低い結果となっているので、話し合いが抽象的にならないように、話し合う項目を具体的にし、その結果も共有できるような場の設定を単元で2時間は確保する。運動量の確保は、すきま時間をつくらない行動をする。

第3学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

体力の向上と技能の習得を目指して種目に応じた補強運動を取り入れる。すべての生徒が挑戦できるよう習熟度別に課題を提示する。課題と目標を明確にするために毎時間の振り返りを学習カードに記録する。

【授業の一部または全部を改善すること】

様々な場面を通してペア・グループ活動の機会を多く取り入れる。関わる人を固定せず誰とでも協力して取り組むことで他者を受け入れ支える姿勢を身に付けさせることで安心して挑戦しようとする姿勢や行動を促していく。